



一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本人は自然保護の思想が **a** ヒンコンだといわれる。なぜそうなのかを少し考えてみたい。一言にしていえる自然が豊かすぎるからである。国土面積の森林被覆率は七〇パーセント弱、これは森と湖の国フィンランドに **b** する世界有数の森林国といえよう。木材の国カナダといえども森林被覆率は三三パーセント、ドイツやフランスでセントだから、日本は大変な森林国である。それに種類も多い。フィンランドへ行ってびっくりするのは、樹種ないことだ。カンバ類三種と松、トウヒくらい知っているのと、どこか森へ行っても間に合う。

わが国は、世界でも有数の天災多発国だ。毎年台風が **c** シュウライして草木をなぎ倒し、そこそこで洪水が起や火山の噴火で山は崩れ、山火事で全山が燃え尽きることもある。【1】、しばらくするとススキや笹が牛低木や松の緑が破壊された地肌を **d** 覆ってしまふ。日本の森は、壊れても焼かれても復元する強靱さをもっておでも最も拡幅力が強い森だといってよい。

清い水と豊かな緑に覆われた自然の中で育った日本人には、それを保護しようなどという考えが生まれようもどんな **e** 災厄からも立ち直る【1】不死鳥のような自然、それはちっぽけな人間の力をはるかに超越した不動の存在守りこそすれ、人間に守られるものではありえなかった。

大野晋氏によると、②大和言葉には、「自然」に該当する言葉は見当たらないという。現在のわれわれが使っている言葉は、ネイチャーの訳語である。親鸞の末燈抄に「自然といふは、もとよりしからしむといふことばなように、自ずから然り、【2】、あるがままにあるものとして自然は認識されてきた。

ヨーロッパの森は日本のそれとは違い、人為に対しても弱くて弱い。農耕牧畜が始まって以来、ヨーロッパのし続けられ、ほとんどなくなってしまう。自然は人間の対立物としてとらえられ、人間によって支配されるべった。自然破壊の極致に至ったとき、③自然は管理し保護しなければならぬという思想が生まれる。プロシ護という言葉が誕生するのは、わずか二〇〇年前のことである。

日本人にとっては、④自然は人間の対立物でもなく、ましてや支配する対象でもなかった。空気や水と同じくりまくごくあたりまえのものであった。人間の力ではびくともしない豊かな自然、それがここ二〇年の間に巨大の進歩によって、急激に壊され始めたのである。しかし、まだ日本人の心の奥には、自然は無限に豊かで、不落花のような印象が根を張っている。この状況が続けば、かつてのヨーロッパがそうであったように、否もつと恐ろ日本の自然が破壊しつくされるであろう。【3】もはや取り返しがつかなくなる。今のうちに自然保護と愛育てなければならぬ。

(『子供と自然』)

問一 二重傍線部 a～e のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みを答えなさい。

問二 本文中から次の一文が抜け落ちている。本来の正しい位置に戻すとき、その直前の五文字を答えなさい。

(句読)

人々は自然との一体感の中で、四時のうつろいに身をゆだね、もののあわれを感じ取り、いのちのはかきをいたした。

問三 【1】～【3】にあてはまる適当な言葉を後のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア そうなれば イ ところで ウ しかし エ きて オ つまり

問四 傍線部①とあるが、日本の自然を不死鳥にたとえたのはなぜか。本文中の語句を用いて答えなさい。

問五 傍線部②とあるが、日本では古来から「自然」という言葉をどのように捉えてきたか。本文中の語句を用いて答えなさい。

問六 傍線部③④とあるが、それぞれの考え方が生まれた理由を、③は「対立物」「人為」、④は「豊かな緑」語句を用いて説明しなさい。

三 次の1～3の慣用句・ことわざ・故事の（ ）にあてはまる適当な言葉を漢字一字で答えなさい。

- 1 青菜に（ ）
- 2 雲（ ）の差
- 3 （ ）牙にもかけない

四 次の語の反対語を、それぞれ後の語群から一つ選び、漢字で答えなさい。

- ① 精神
- ② 質疑
- ③ 過激

(語群) シンリ ブツシツ トウアン オンケン エンカツ オウトウ

五 次の冒頭文を読んで後の問いに答えなさい。

- A 春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、少し明かりて、むらさきだちたる雲の細くたなびて
- B 親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりしている。小学校にいる時分学校の二階から飛び降りて一週間ほした事はある。

- 1 Aの作者名を答えなさい。
- 2 Bの作品名と作者名を答えなさい。

六 次の会話文の【 】部分を、各条件に合うように正しい敬語を使って作文しなさい。

- 1 《条件》(場所) 会社 (相手) 取引先の人

(電話での会話)

取引先 「すみません、田中部長はいらっしゃいますか。」
社員 「申し訳ありません。ただいま【田中部長はいません】。」

- 2 《条件》(場所) 店 (相手) 客

客 「すみません、この商品の在庫はありますか。」
店員 「確認しますので、【 】ここでちょっと待って【 】ください。」

- 3 《条件》(場所) 学校 (相手) 先生

先生 「保護者宛のアンケートのプリントは持ってきましたか。」
生徒 「そのことで、【お母さんが電話をしてほしいと言っていました】ました。」